

今年12月で開院20周年です。

平成16年12月、那覇新都心に移転して9年が経ちました。当時、周囲は草ボウボウでしたので現在の賑やかさからは隔世の感があります。「小児クリニックたまなは」は、平成5年12月に浦添市宮城のビルテナントでスタートしました。開業時のスタッフは5人でしたが、今では11人で運営しております。

私は、沖縄が復帰する前に群馬大学医学部に入学し、1976年(昭和51年)に卒業しました。(復帰は1972年)米国統治下の復帰前はドルを使用し、車は右側通行でしたので一夜にして世の中のシステムが変わったのにはビックリしたものです。

卒業後は、うるま市にある県立中部病院で研修し、小児腎臓病の専門医として11年間勤めました。その間、神奈川県の北里大学小児科2年間、英国ロンドンのガイズ病院で1年2か月間、小児腎臓病学を学ぶことができました。

しかし、世の中は子ども達の気管支喘息が増え、アトピー性皮膚炎も徐々に増加傾向にありました。今から約20年前の1990年前後のことです。特に私が興味を持ったのは食物アレルギーとアトピーの関係でした。「アトピーは食物アレルギーだ。」という信念でアレルギーの世界へ入って行きました。

その頃(平成2年)、中城村のハートライフ病院からお誘いがあり、アレルギーを特化した小児科を開設し、3年半お世話になり開業となりました。

さて、今年10月に第50回日本小児アレルギー学会が横浜で行われました。以前の発表演題

は喘息が60%、食物アレルギーが15%で推移しておりましたが、10年ほど前から徐々に食物アレルギーの発表が多くなり、今年食物アレルギー45%、喘息30%となりました。

食物アレルギーは食べる以外にも、「茶のしずく石鹸」で問題になったように加水分解コムギが皮膚から吸収されて、小麦アレルギーなる症例が多発しました。また、コチニール色素(赤い色素)が入ったお菓子やジュースでのアレルギー発症例やエリスリトールという甘味料(カロリー0 kcal/g、砂糖の60~80%の甘味度)がノンカロリー食品に多用されており、それによるアレルギー症状も報告されてきています。

これからは次第に食品添加物によるアレルギー反応が増えてくる傾向です。また、食物アレルギーの対処も変化しつつあり、以前は完全除去を指導しておりましたが、最近では「経口免疫療法」という微量から食べさせて耐性を作っていく方法が普及しつつあり、最小限の除去という考えに変わりつつあります。このようにアレルギー学会でも年々アレルギーに対しての考え方、対処方法が変わりつつあります。今回、開院20周年を祈念して講演会を行いますので是非参加され、分からないことがあればご質問していただければと思います。

12月8日(日)10時から12時
沖縄県立博物館・美術館

「よくわかる食物アレルギー」

対象：食物アレルギー児を持つ親、その他
受講無料。要事前申し込み。先着200名。

☎ 098-867-0017

(たまなは)